

富士北麓・東部地方振興局健康福祉部

「看護の日」のご案内

近代看護の創始者フローレンス・ナイチンゲールの生誕を記念し、五月十二日を「看護の日」と制定しました。

そこで、五月六日から十二日を看護週間として、看護についての関心と理解を深めるとともに、看護職員などの就業を促進し活力ある長寿社会づくりを進めます。

期間中、「フェスタ看護」と銘打って、次のような事業が開催されます。

☆看護の心普及街頭キャンペーン

五月十一日(金)

J R 大月駅・上野原駅・富士急行線赤坂駅

☆一日看護婦

六月～七月

高校2・3年生を対象に、管内病院において一日看護体験

☆第二十三回山梨県看護大会

五月二十三日(水)

甲府市総合市民会館

☆いきいき看護文化展

五月七日(月)～十三日(日)

J R 甲府駅南北通路

問合せ

大月市大月町花咲 1608-13

☎(22)7824

標準営業約款制度「Sマーク」を「存じ」ですか!

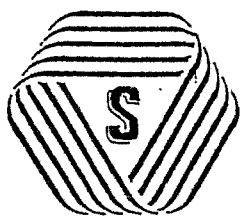
Sマークとは、法律で定められた消費者(利用者)擁護に資するための制度です。

厚生労働大臣許可の約款に従って営業することを登録した理容店、美容店、クリーニング店では、店頭「Sマーク」を掲示し、施設や設備、仕事やサービスの内容などを表示して技術・衛生・安全を保障しています。

また、万一の場合、事故賠償基準に基づいた補償も受けられます。

お店選びは左記のSマークの登録店で!

標準営業約款(Sマーク)



厚生労働大臣認可

※詳しくは、財団法人山梨県生活衛生営業指導センターへお問い合わせください。

☎055(232)1071

健全育成シリーズ(119) 反抗期



子が親と口を聞かない

最近うちの子は親と口を聞かなくなりました。話しかけようにも『関係ないじゃん』とか『うるさいなあ』ぐらいで、自分の部屋に閉じこもってしまふ。難しいね、腫れ物に触るようだよ。

それは反抗期だよ。どこの子ども皆んなそう。親も大変だけど覚悟しなければ。

でも、またそういうところを通らなければ心配だよ。と言うような親同士の会話があります。

確かに思春期になると、子ども達は親に、大人に、社会に対し、疑問を持ってきます。その神経質で揺れている不安定な時期に、周りの押し付けや、口うるさいことで、さらに煩わしさが加わり、反抗的態度をとり、その結果、親との会話もめっきり少なくなってしまうようですよ。

しかし私たち大人は、これを「当然で、よし」と容認し、「こういう時期だから仕方が無い」と会話の努力を放棄して、逃げてしまつてよいのでしょうか。

最もこの時期でも、親との会話

が十分とはいかなくても、まあまあ普通に、今まで通り生活できている家庭もあることを忘れてはいけません。

「子と親が口を聞かなくなってしまうこと」これは、人間が成長し、大人になっていく一番大事な青年期に、できれば、最も避けたことではないでしょうか。

彼らは自分の意見を主張でき、親の言いなりから自立する時です。相手を見る目や判断力を養い、大人としての行動ができる準備の時期であり、そのための論理的思考(力)を家庭でも育てなければ、大人になるバランス感覚は失われ、自立していけないのも事実ではないだろうか。そのためにも、親子のぶつかり合いはあつても、大人と子どもの会話の機会は大切に重要です。

最近、いわゆる『サイレントベビー』と名付け、泣かないであまり手がかららない赤ちゃんが増えていると言われています。

医師らの指摘によると、その原因として親子間のコミュニケーション不足を挙げています。普段話しかけない母親の子に、このようなおとなしい子が見られるようです。

母親の言い分は、「話しかけなくても、乳児が自然に言葉を覚えていくものと思った」と。

赤ちゃんから「泣く・笑う」など

のメッセージが送られた時、母親が「抱く」とか、「声かけ」などの対応をして安心感を与えることは、赤ちゃんの欲求を快く満たします。それが将来の自立心の成長に繋がっていくと言われています。

乳児期はサイレントベビー、幼稚園・小学校期はファミコンゲーム、中学校期はパソコンと、これでは親子の会話の機会は極端に少なくなるのは当然です。

子どもが自我に目覚め、自分の将来を決めなければならぬ重要な時期になって、「親子の会話ができない」と嘆いても始まりません。小さい頃から、もっと親と子は様々な体験や会話を通して、日々人間として関わるべきです。

子育ては、子どもの年齢に合わせて親も成長して行くものだろう。

特に、心身の発達著しい思春期は、親もまた自身を見つめ直し成長する良い機会でもあると思います。

親の仕事の疲れや子どもとの接し方の難しさから、子育てを簡単に諦めてほしくない。

大人も、自分のその頃のことを振り返りながら、難しいことだが余裕を持って子どもと接するよう努力してください。温かい語りかけをおし相互の思いやりを育んでいきたいものです。

子どもを育てるのも楽しいものだと思えます。